

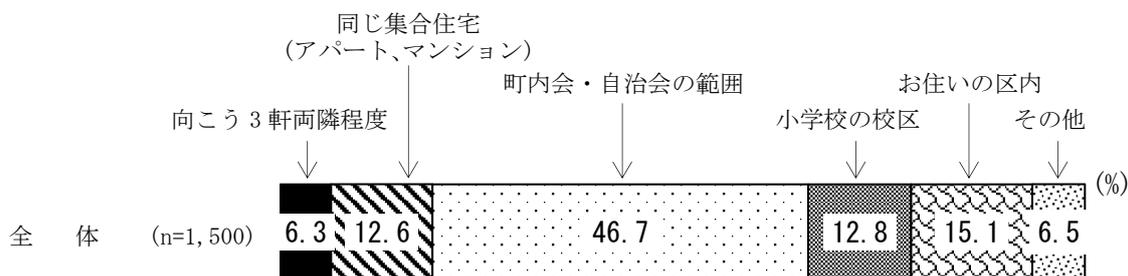
3 市民自治の実態等について

3-1 地域の範囲

◎「町内会・自治会の範囲」が46.7%

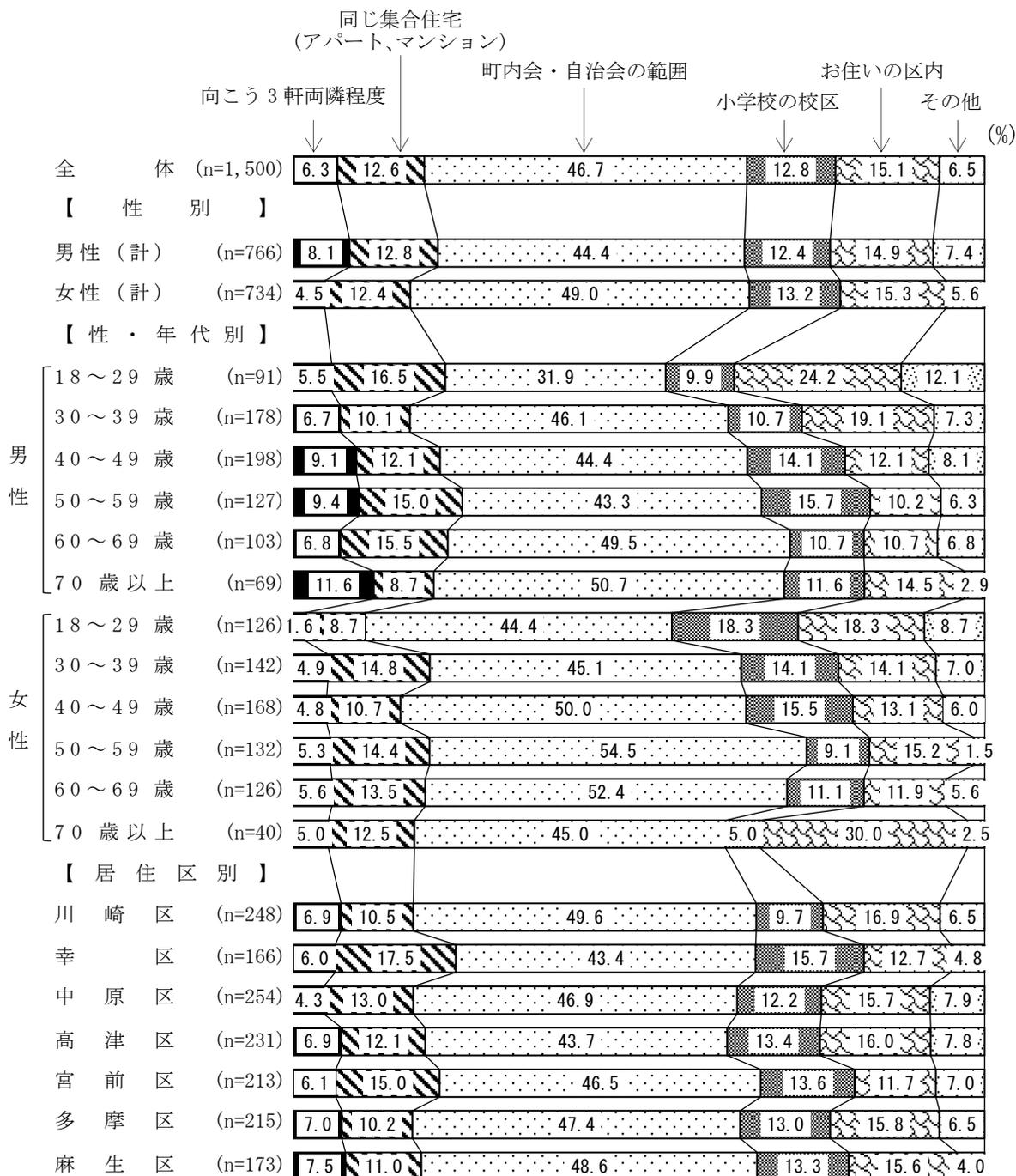
Q1. あなたにとって、「地域」とは、次のうちどの範囲をさすものですか。

図表3-1 地域の範囲



自身にとっての「地域」の範囲について、半数近く(46.7%)の方が「町内会・自治会の範囲」と回答している。2番目に高いのは「お住いの区内」で15.1%、以下、「小学校の校区」(12.8%)、「同じ集合住宅(アパート、マンション)」(12.6%)、「向こう3軒両隣程度」(6.3%)の順となっている。

図表3-2 地域の範囲(性/年齢別・居住区別)

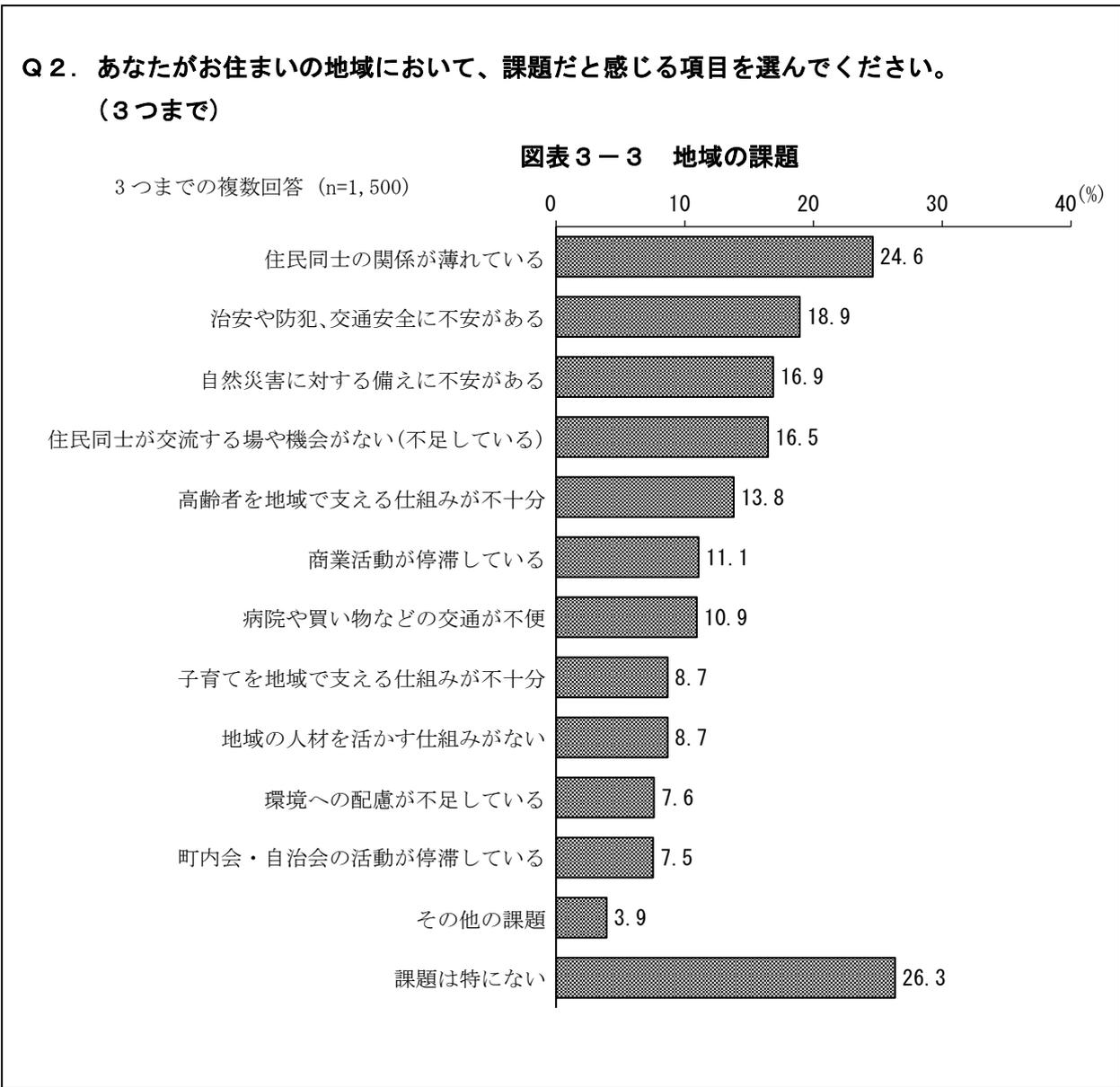


性/年齢別では、男性の18~29歳(31.9%)を除いて、すべての年代で半数前後が「町内会・自治会の範囲」と回答している。男女ともに18~29歳は、他の年代に比べ、より広い範囲を回答する方の割合が高い(「小学校の校区」と「お住まいの区内」を合わせた割合は、男性の18~29歳で34.1%、女性の18~29歳で36.5%)。

居住区別では、最も高い川崎区(49.6%)をはじめ、すべての区で「町内会・自治会の範囲」が4割を超えている。

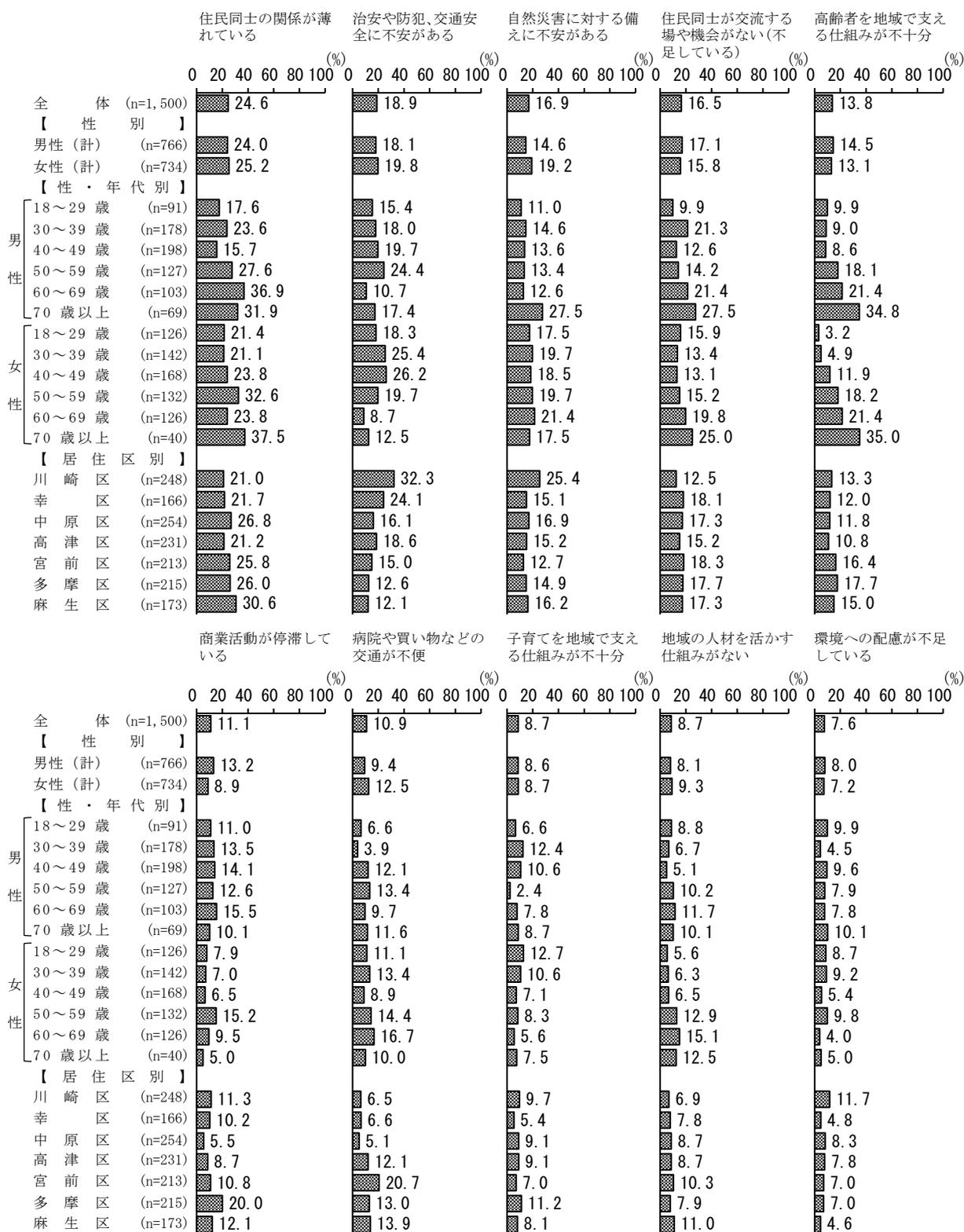
3-2 地域の課題

◎「住民同士の関係が薄れている」が24.6%



お住まいの地域の課題について、「住民同士の関係が薄れている」(24.6%)が最も高く、次いで、「治安や防犯、交通安全に不安がある」(18.9%)、「自然災害に対する備えに不安がある」(16.9%)、「住民同士が交流する場や機会がない(不足している)」(16.5%)の順となっている。

図表3-4 地域の課題(性/年齢別・居住区別 上位10項目)



性/年齢別では、ほとんどの年代で、「住民同士の関係が薄れている」が最も回答割合が高い地域の課題となっている中で、男性の40~49歳、女性の30~39歳と40~49歳では「治安や防犯、交通安全に不安がある」が最も高く、男性の70歳以上では「高齢者を地域で支える仕組みが不十分」が最も高い。

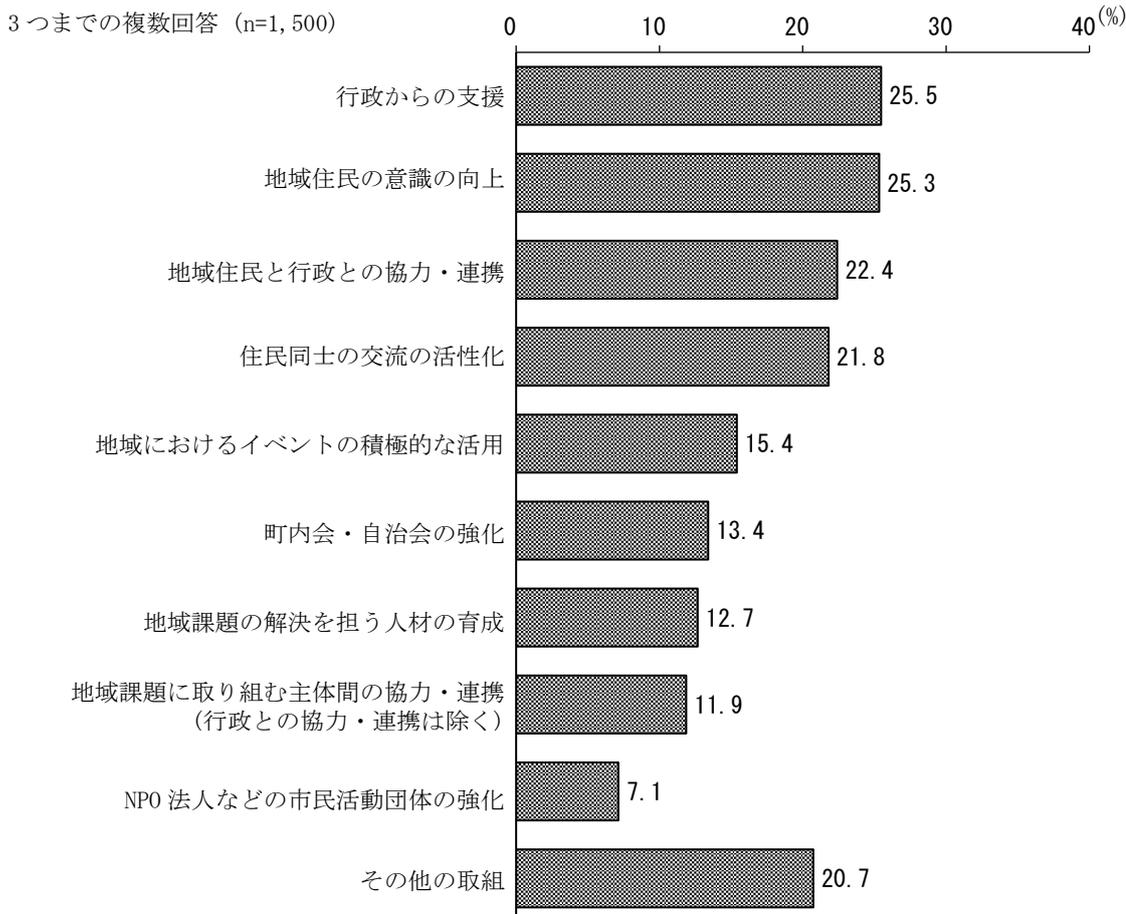
居住区別では、川崎区と幸区では「治安や防犯、交通安全に不安がある」が最も高い。

3-3 地域の課題解決に有効な取り組み

◎「行政からの支援」が25.5%、「地域住民の意識の向上」が25.3%

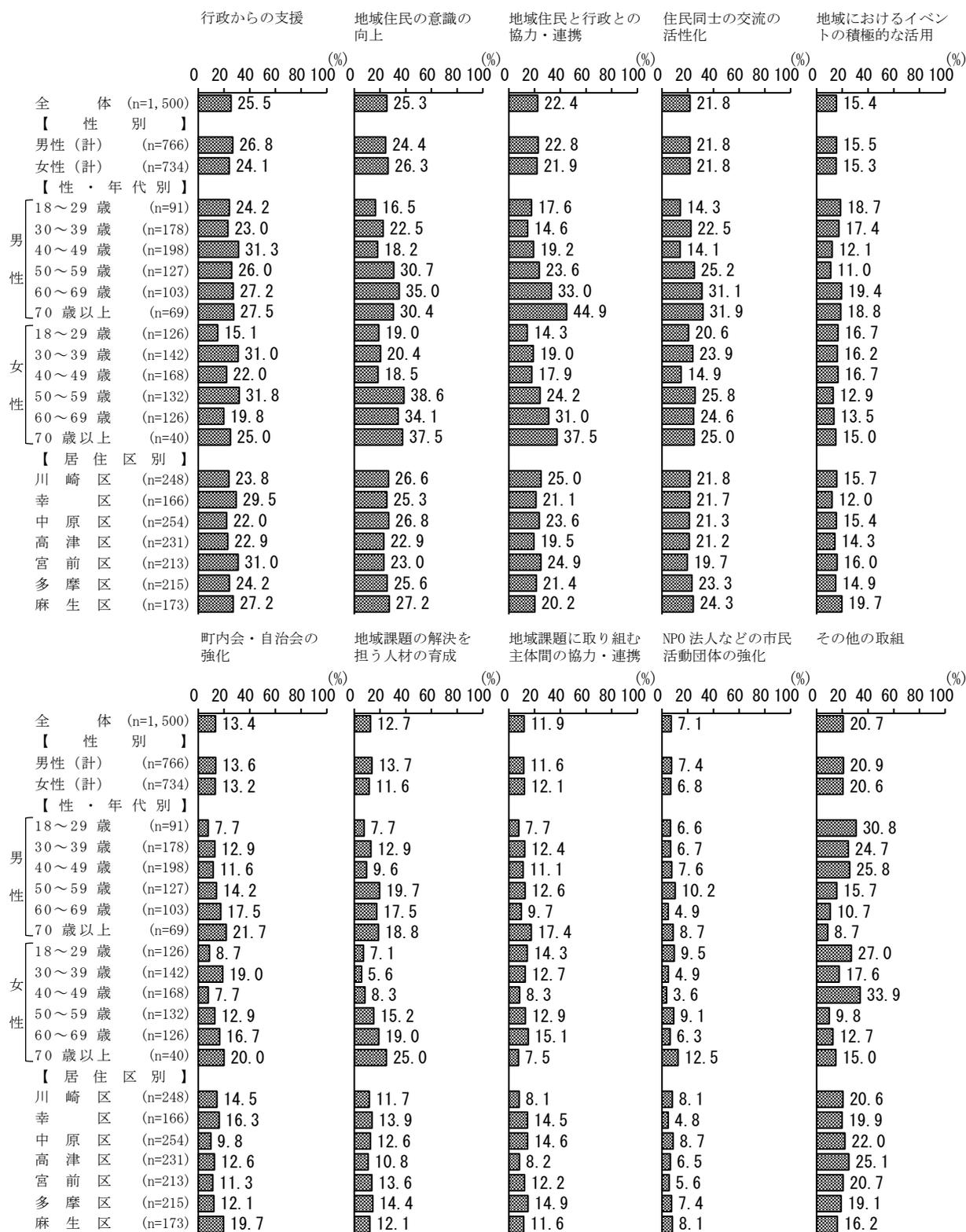
Q3. あなたがお住まいの地域における課題を解決するための取組として、何が有効だと思いますか。(3つまで)

図表3-5 地域の課題解決のために有効な取り組み



お住まいの地域において感じている課題解決に有効な取り組みとしては、回答割合が高いものから順に、「行政からの支援」(25.5%)、「地域住民の意識の向上」(25.3%)、「地域住民と行政との協力・連携」(22.4%)、「住民同士の交流の活性化」(21.8%)となっている。

図表3-6 地域の課題解決に有効な取り組み（性／年齢別・居住区別）



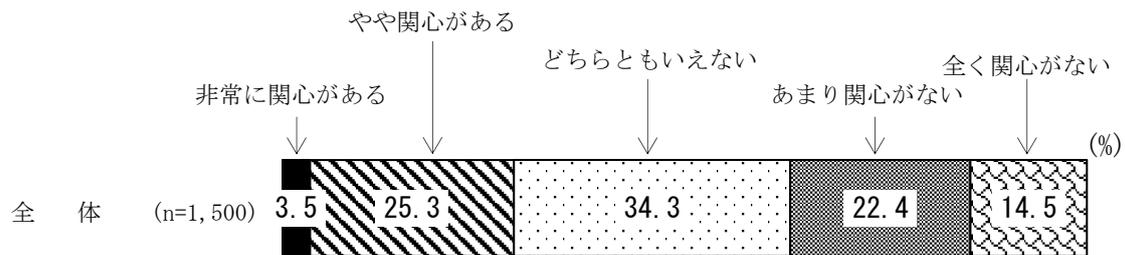
「地域住民の意識の向上」については、男女ともに50歳以上の年代で高くなる傾向となっている。また、「地域住民と行政との協力・連携」は、男女ともに70歳以上で最も高い。

3-4 社会活動・地域活動への関心度

◎「非常に関心がある」と「やや関心がある」を合計した＜関心がある＞が28.8%

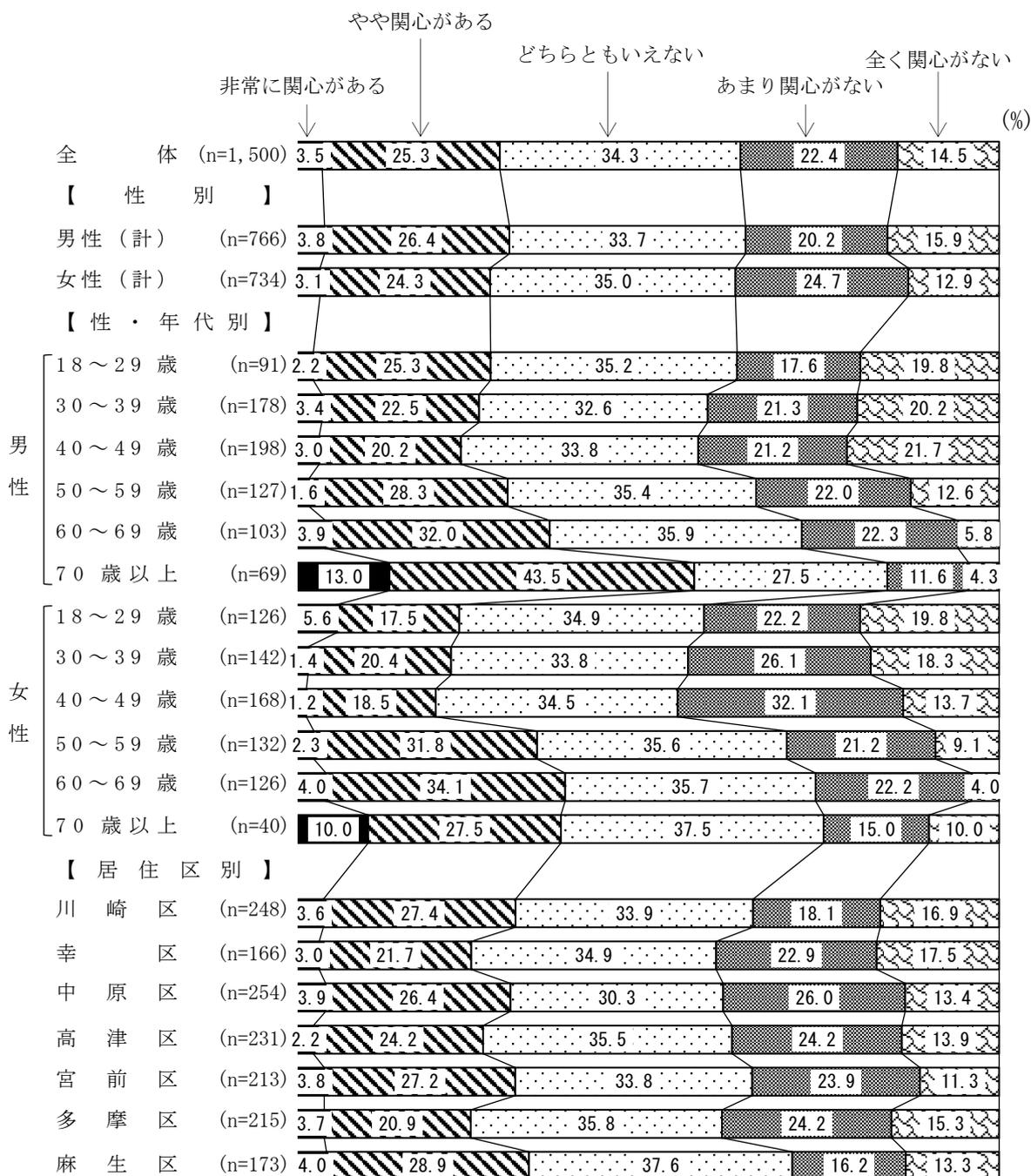
Q4. あなたは、社会活動、地域活動にどの程度関心を持っていますか。

図表3-7 社会活動・地域活動の関心度



社会活動・地域活動に対して、28.8%の方が＜関心がある＞（「非常に関心がある」と「やや関心がある」の合計）と回答している。

図表3-8 社会活動・地域活動の関心度(性/年齢別・居住区別)

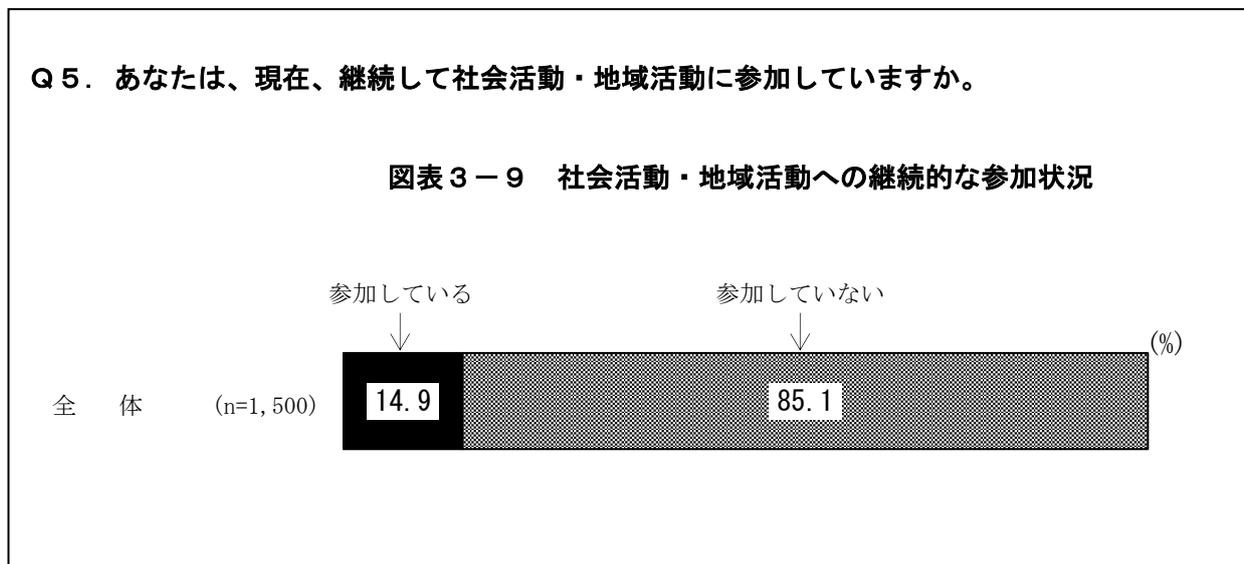


性/年齢別では、男性の60~69歳と70歳以上、女性の50歳以上の年代では、社会活動・地域活動に「関心がある」(「非常に興味がある」と「やや興味がある」の合計)が3割を超え、特に男性の70歳以上では「関心がある」が56.5%と最も高くなっている。

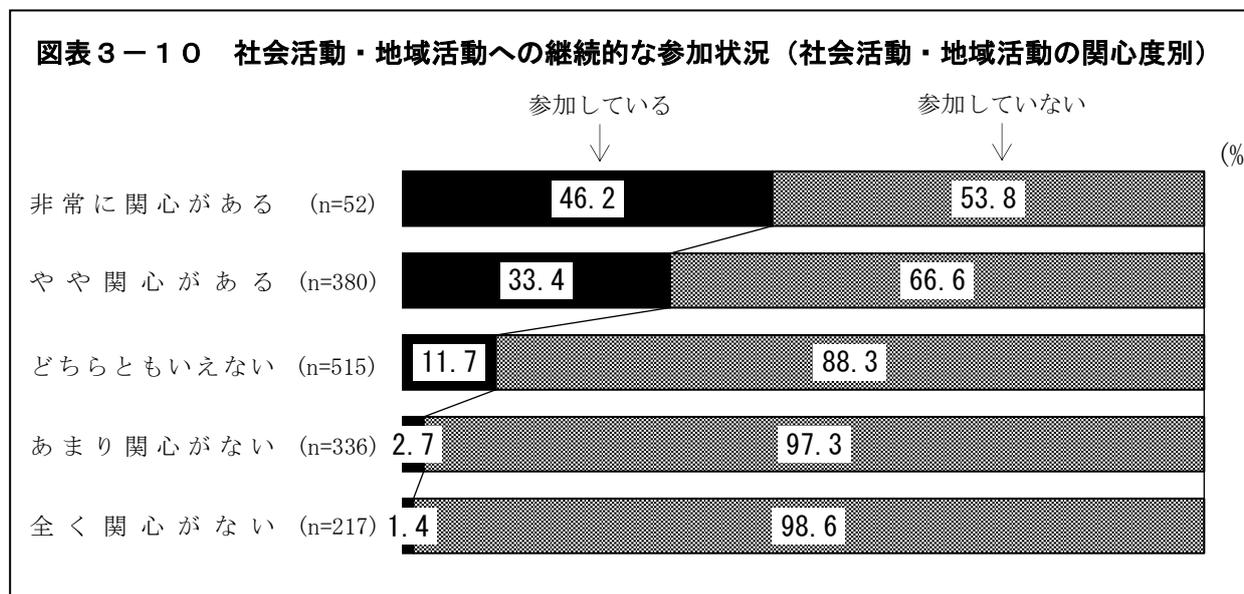
居住区別では、麻生区(32.9%)で最も「関心がある」が高く、宮前区、川崎区、中原区においても「関心がある」が3割を超えている。

3-5 社会活動・地域活動への継続的な参加状況

◎「参加していない」が85.1%

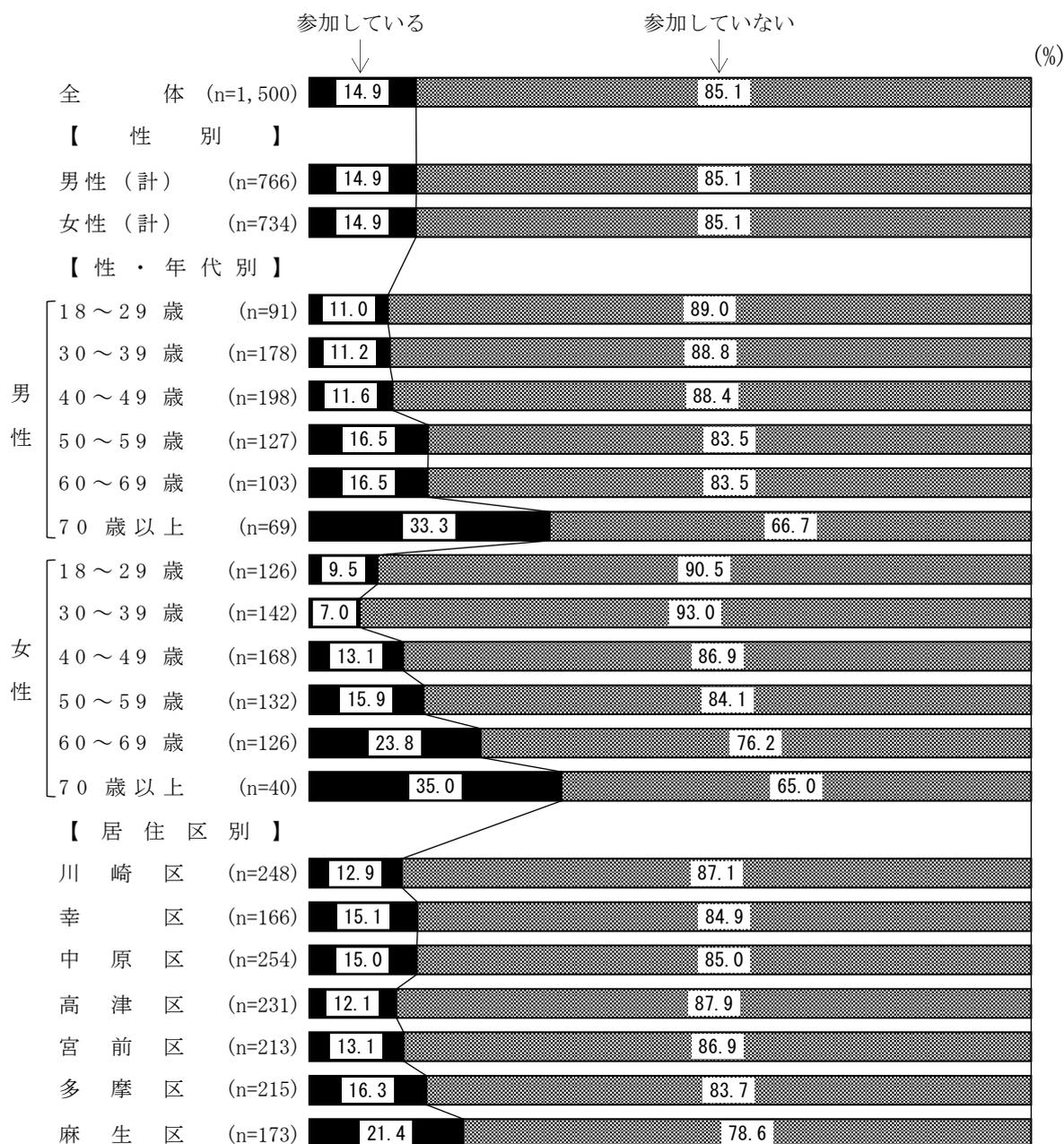


現在、継続的に社会活動・地域活動に「参加している」と回答した人の割合は14.9%となっている。



社会活動・地域活動に「非常に興味がある」人では46.2%、「やや興味がある」人では33.4%が、現在、社会活動・地域活動に「参加している」と回答している。

図表3-11 社会活動・地域活動への継続的な参加状況（性／年齢別・居住区別）

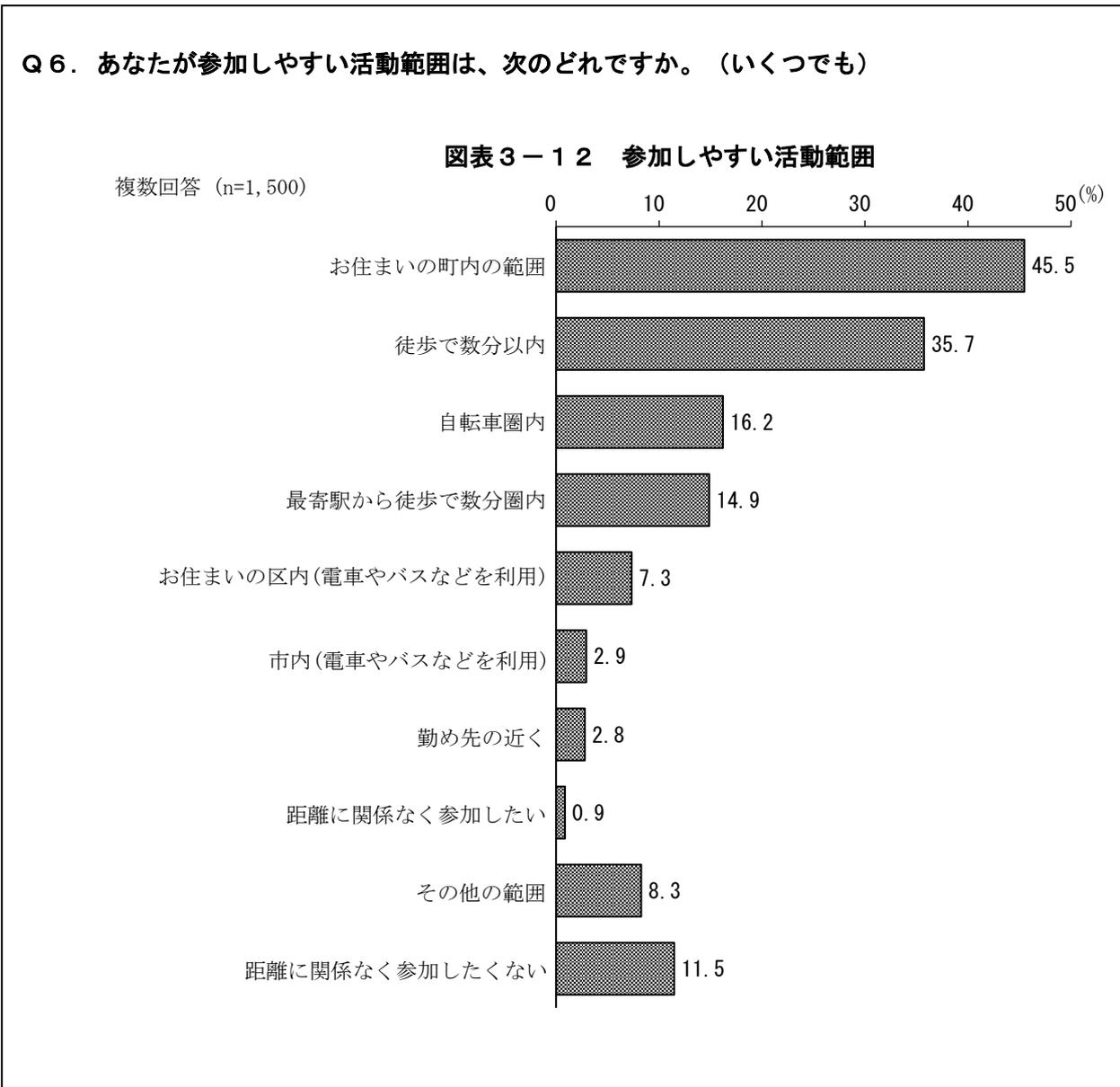


性／年齢別では、男女ともに年代が上がるにつれ、社会活動・地域活動への継続的な参加率が高くなる傾向となっており、70歳以上では3割を超えている。

居住区別では、麻生区(21.4%)で参加率が最も高く、他の区では参加率が1割台となっている。

3-6 参加しやすい活動範囲

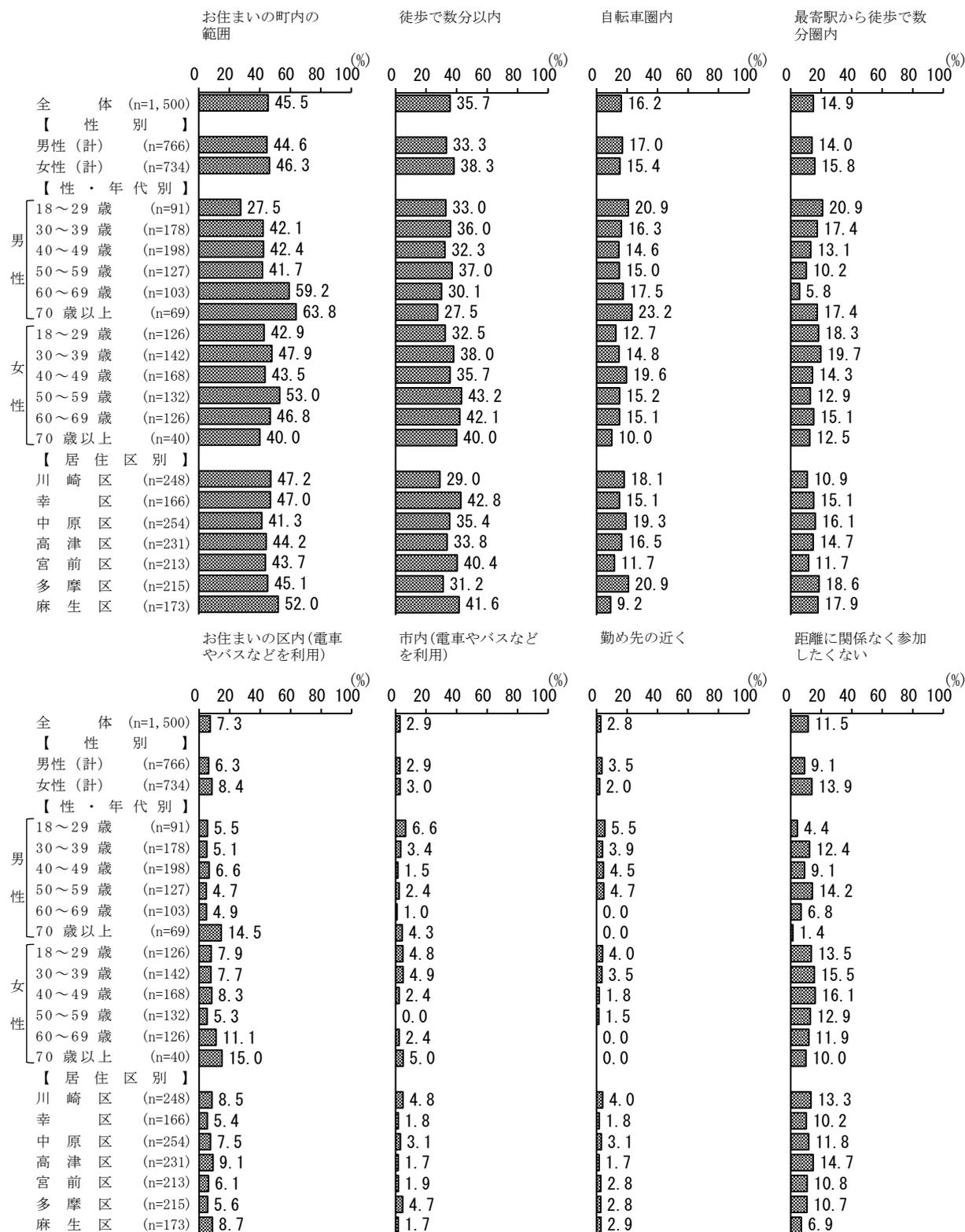
◎「お住まいの町内の範囲」が45.5%



参加しやすい活動範囲は、「お住まいの町内の範囲」(45.5%)が最も高く、次いで、「徒歩で数分以内」(35.7%)、「自転車圏内」(16.2%)、「最寄駅から徒歩で数分圏内」(14.9%)の順となっている。

なお、「距離に関係なく参加したくない」が11.5%となっている。

図表3-13 参加しやすい活動範囲(性/年齢別・居住区別 上位8項目)



性/年齢別では、男性の60~69歳と70歳以上で「お住まいの町内の範囲」が6割前後と最も高い。

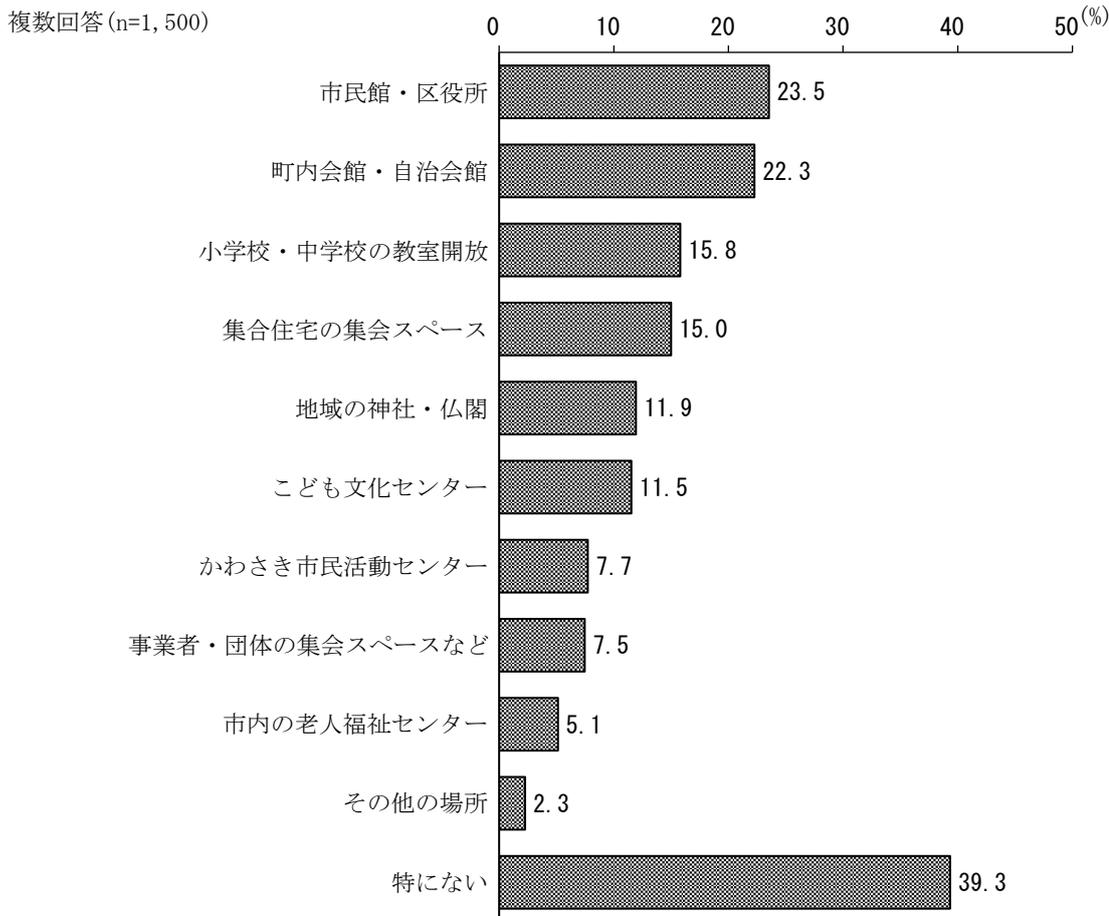
居住区別では、「お住まいの町内の範囲」は麻生区(52.0%)で最も高く、他の区でも4割を超えている。

3-7 地域で活動を行う場合に、気楽に使える場所

◎「市民館・区役所」が23.5%、「町内会館・自治会館」が22.3%

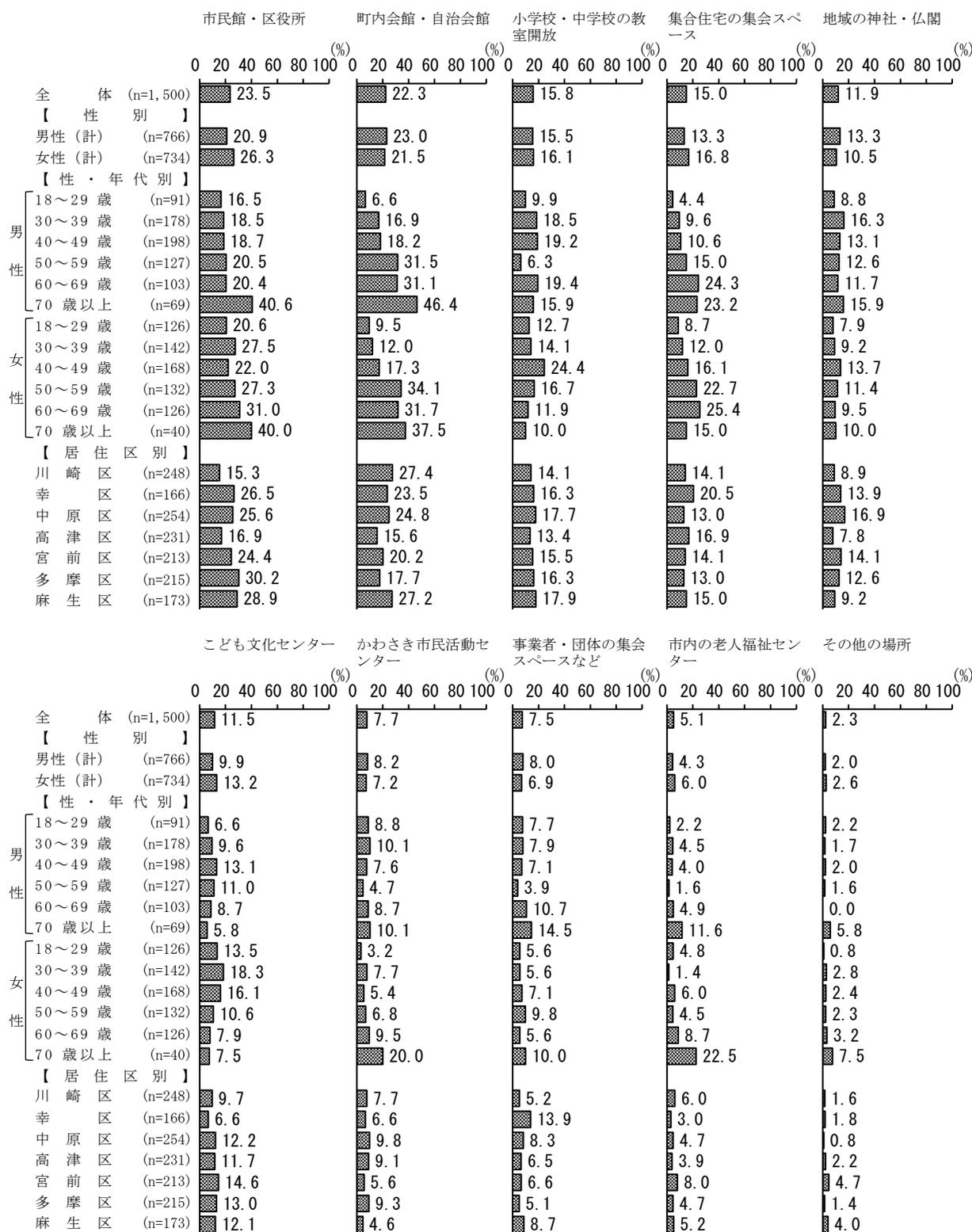
Q7. あなたが、地域で活動を行う場合に、気軽に使える場所は次のどれですか。
(いくつでも)

図表3-14 地域で活動を行う場合に、気楽に使える場所



地域で活動を行う場合に、気楽に使える場所としては、「市民館・区役所」(23.5%)が最も高く、次いで、「町内会館・自治会館」(22.3%)、「小学校・中学校の教室開放」(15.8%)、「集合住宅の集会スペース」(15.0%)の順となっている。

図表3-15 地域で活動を行う場合に、気楽に使える場所
(性/年齢別・居住区別 上位10項目)



性/年齢別では、男性の50歳以上の年代では「町内会館・自治会館」が最も回答割合が高い場所となっている中で、女性の50歳以上の年代では、「市民館・市役所」と「町内会館・自治会館」が同程度となっている。また、女性の40~49歳では「小学校・中学校の教室開放」が最も高い。

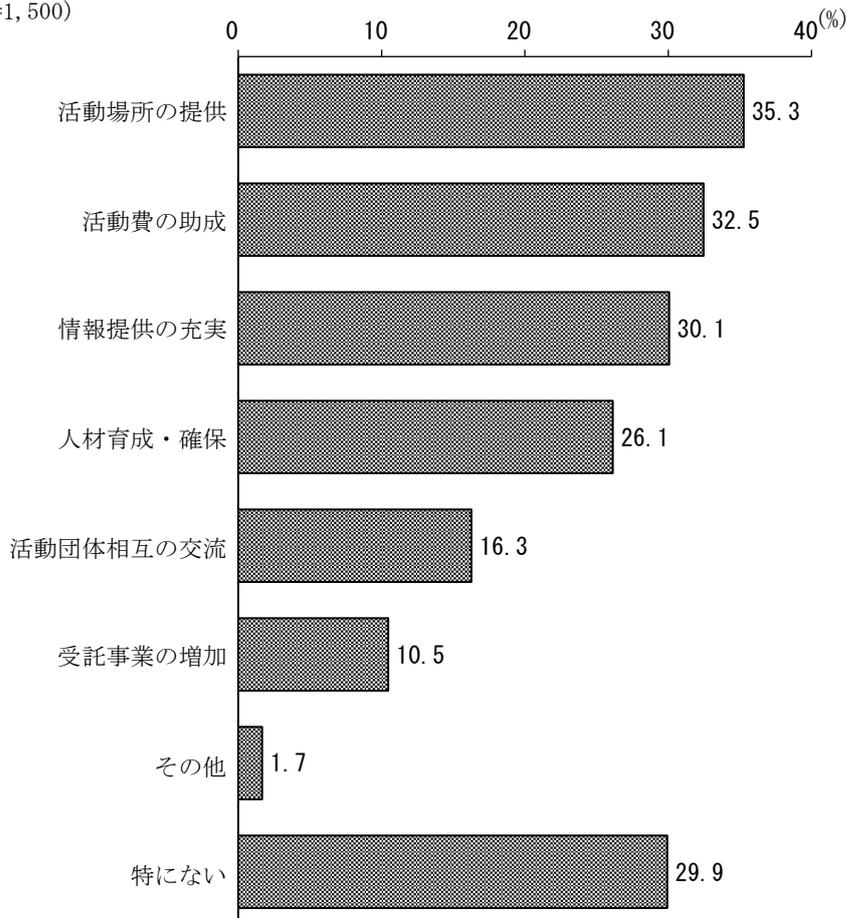
3-8 市民活動・地域活動に対して行政が支援すべきだと思う項目

◎「活動場所の提供」が35.3%

Q8. 不特定の第三者の役に立つような公益性が高い社会活動・地域活動に対して、行政が支援すべきだと思う項目はどれですか。(いくつでも)

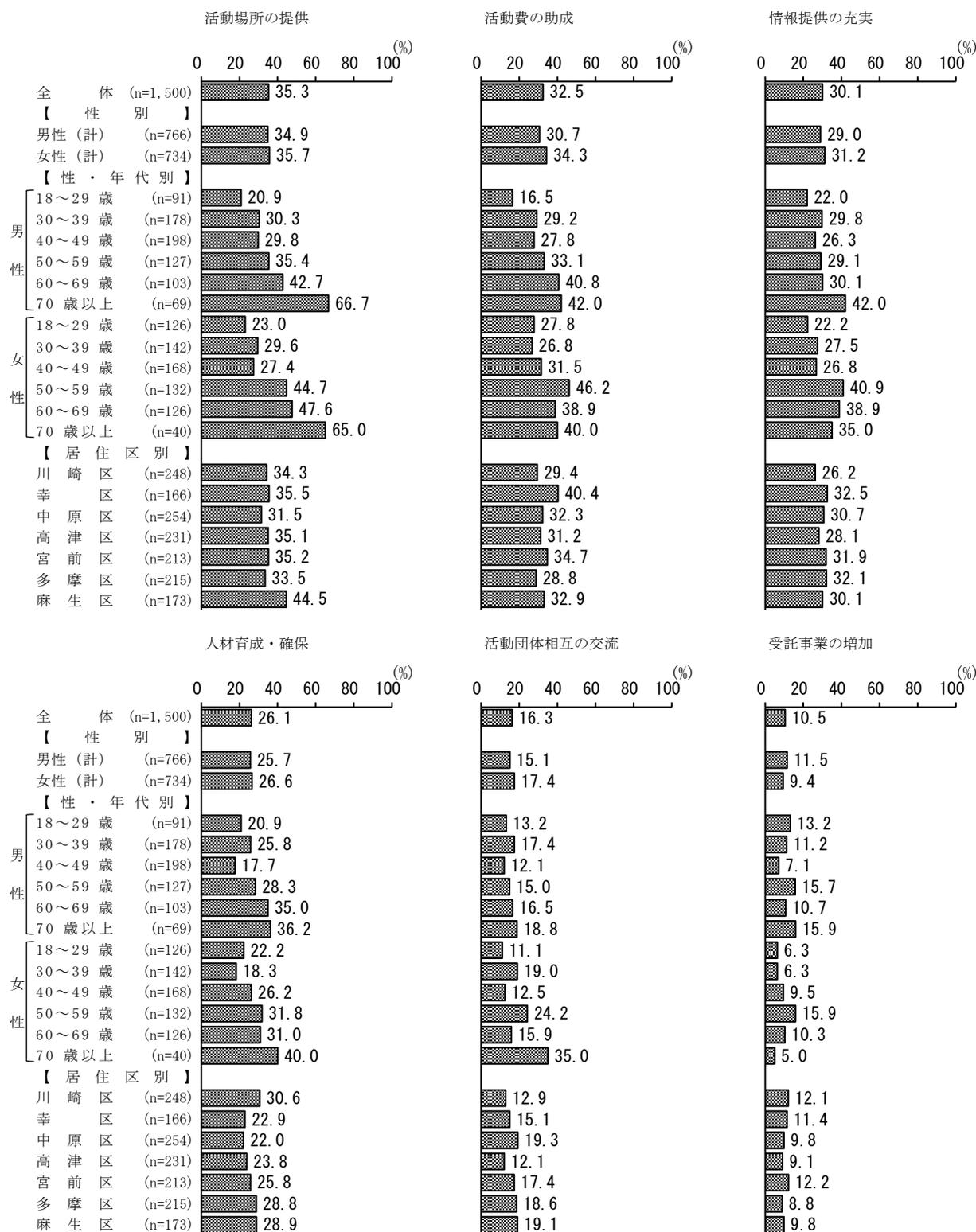
図表3-16 市民活動・地域活動に対して行政が支援すべきだと思う項目

複数回答(n=1,500)



不特定の第三者の役に立つような公益性が高い社会活動・地域活動に対して、行政が支援すべきだと思う項目を聞いたところ、回答割合が高いものから順に、「活動場所の提供」(35.3%)、「活動費の助成」(32.5%)、「情報提供の充実」(30.1%)、「人材育成・確保」(26.1%)となっている。

図表3-17 市民活動・地域活動に対して行政が支援すべきだと思う項目
(性/年齢別・居住区別 上位6項目)



性/年齢別では、男女ともに70歳以上で「活動場所の提供」が7割近くと最も回答割合が高い支援項目となっている。

居住区別では、麻生区では「活動場所の提供」が、幸区では「活動費の助成」がともに最も高く、他の区では、それら2つに加えて、「情報提供の充実」や「人材育成・確保」がほぼ同程度となっている。